

高大連携高校生防災教育推進事業「高校生防災セミナー」を開催

●減災連携研究センター

減災連携研究センターは、7月25日(木)、26日(金)、29日(月)、8月26日(月)の4日間、環境総合館レクチャーホール及びES総合館ESホールにおいて、本学、愛知県防災局、愛知県教育委員会主催により高大連携高校生防災教育推進事業「高校生防災セミナー」を開催しました。

同セミナーは、南海トラフ巨大地震が懸念される愛知県



セミナーの様子

において、学校や地域の防災力向上に貢献できる防災リーダーの育成を目的として、平成22年度から毎年開催しています。自然災害に対する知識や実践的な災害対応に関する講座を、2年に渡って受講します。今年度は、県内の高等学校30校から各校生徒4名、教員1名の合計150名が参加しました。

同セミナーでは、本学教員やNPO職員、県職員等の専門家による講義と演習が行われました。講義はプレート境界及び活断層での地震発生メカニズム、地震に伴う液状化や斜面崩壊のメカニズム、防災ボランティアの役割等についての講義があり、演習では、巨大災害発生を想定し、地図への書き込みを通して災害対応を考える災害図上訓練、避難所運営ゲーム「HUG」を通じた避難所の運営訓練、ペーパークラフト教材「紙ぶるる」を用いた耐震性能実験等の演習を行いました。

8月26日(月)は、津波被害とその対策について学び、その上で地域防災に向けた活動計画について発表を行いました。また、昨年度からの受講生による防災活動に関する経過発表も行われました。

展示会「珍品・逸品・新収品」を開催

●附属図書館医学部分館

附属図書館医学部分館は、5月21日(火)から9月13日(金)までの間、医学部分館において、展示会「珍品・逸品・新収品－医学部史料室の最近の収藏品から－」を開催しました。

展示会では、17から19世紀の日本、中国、西洋の産科学、病理学をはじめとする貴重な古医書、明治期の公立医学校(本学の前身校)校長の著書や講義録、昭和初期に開発され



展示会の様子

た国産油侵系顕微鏡の名機、在学中に二・二六事件が起こった激動の時代の名古屋医科大学(本学の前身校)の卒業記念アルバム、県立愛知医科大学(本学の前身校)教授で脳神経外科学のバイオニアである齋藤 眞氏の手術図で知られる所 輝夫氏(本学卒業生)の画集、戦前・戦中の個人的な図柄が楽しい薬瓶の封緘シールのコレクション、日本医学会総会が初めて名古屋で開催された時の七宝の会員章、昭和45年前後の本学医学部をはじめ、全国の大学の民主化を求める動きを、手書き文書、印刷資料、新聞・雑誌記事などで丹念にたどった民主化史料集など、同館内にある医学部史料室に最近寄贈された史料の中から、珍品、逸品の数々を展示し、多くの来館者の関心を集めていました。

寄贈品には、林 直助県立愛知医科大学教授によるツツガムシ病発生地である新潟県での研究の労苦と功績を描いた記録映画と、テレビで話題の新島八重氏や日本初の女医である荻野吟子氏らの生涯を描いたDVDもあり、館内で視聴された方々から好評を得ました。

また、展示品を契機として医学部史料室の見学を希望される方も多く、さらに大きな知的探究心に応えることができました。